

2012年12月期 第3四半期 決算説明資料

カルナバイオサイエンス株式会社
代表取締役社長
吉野 公一郎

JASDAQ

証券コード:4572

- ✓ 売上高は、対前年同期比17.1%減
- ✓ 営業損益は、売上高減少および売上原価率悪化により前年同期比77百万円のマイナス
- ✓ 経常損益は、営業損益の悪化および営業外収益(補助金収入)の減により前年同期比114百万円のマイナス
- ✓ 当期純損益は、経常損益の悪化及び特別損失の改善により前年同期より104百万円のマイナス

(百万円)

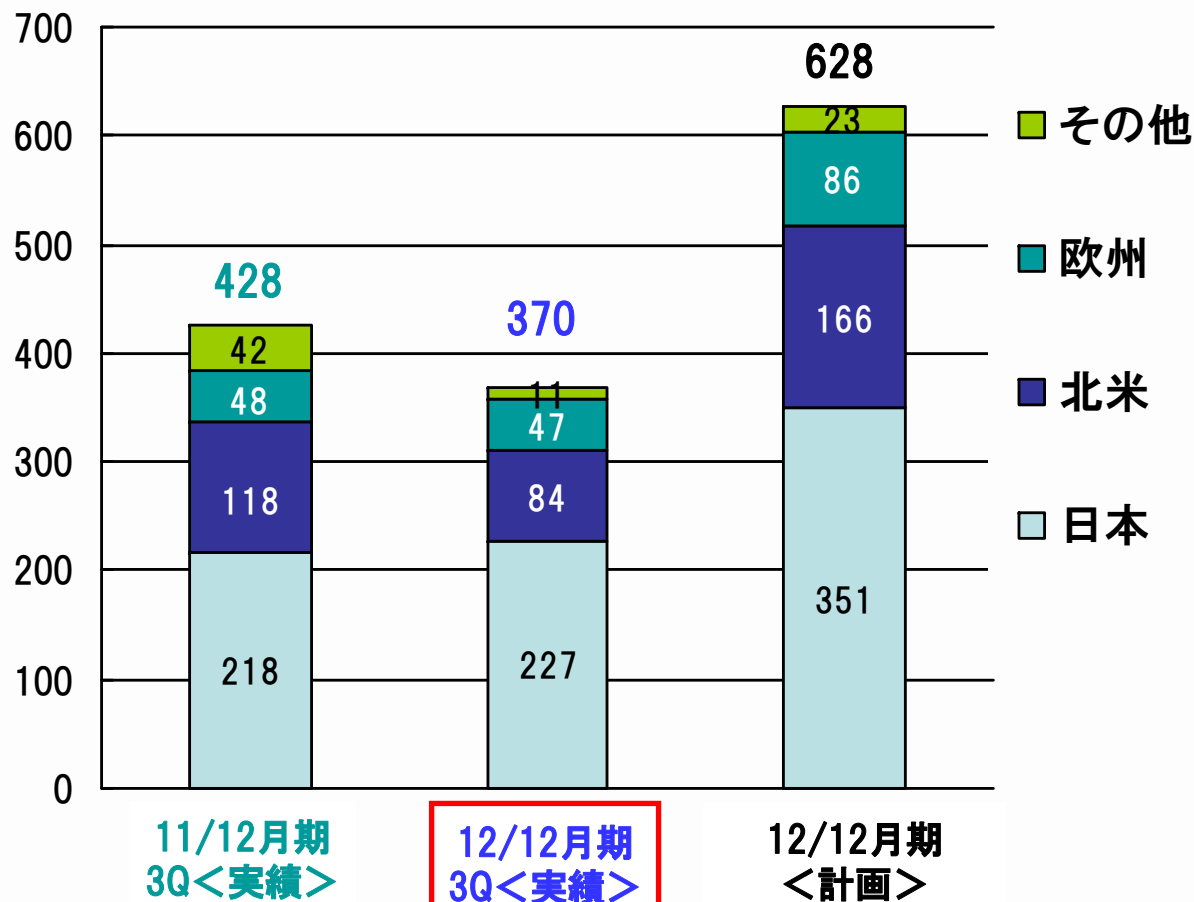
	売上高	営業利益	経常利益	当期(四半期)純利益
2012年12月期第3四半期実績 (a)	370	△364	△347	△354
2011年12月期第3四半期実績 (b)	447	△287	△232	△250
対前年同期比 (c)=(a)-(b)	△76	△77	△114	△104
対前年同期増減率 (d)=(c)/(b)	△17.1%	—	—	—
2012年 計画値 (e)	728	△305	△289	△296
対通期計画値 進捗率 (a)/(e)	50.9%	—	—	—

(注1) 百万円未満は切り捨てて表示しております。

(注2) 当期通期計画値は、2012年7月20日発表の修正通期計画に基づいております。

(注3) 対通期計画に対する進捗率における、「営業利益」「経常利益」「当期純利益」の値はそれぞれ損失を計上しているため数値を表示しておりません。

(百万円) 地域別売上高(連結)



創薬支援全体の売上は
前年同期比13.4%減

・国内は前年同期比4.1%増

・北米は前年同期比28.9%減
⇒タンパク質売上の大幅減少

・欧州は前年同期比2.2%減
⇒タンパク質売上の減少
プロファイリング売上の減少
セルベースアッセイ売上増

・その他は前年同期比72.8%減
⇒バルクタンパク質大口注文減

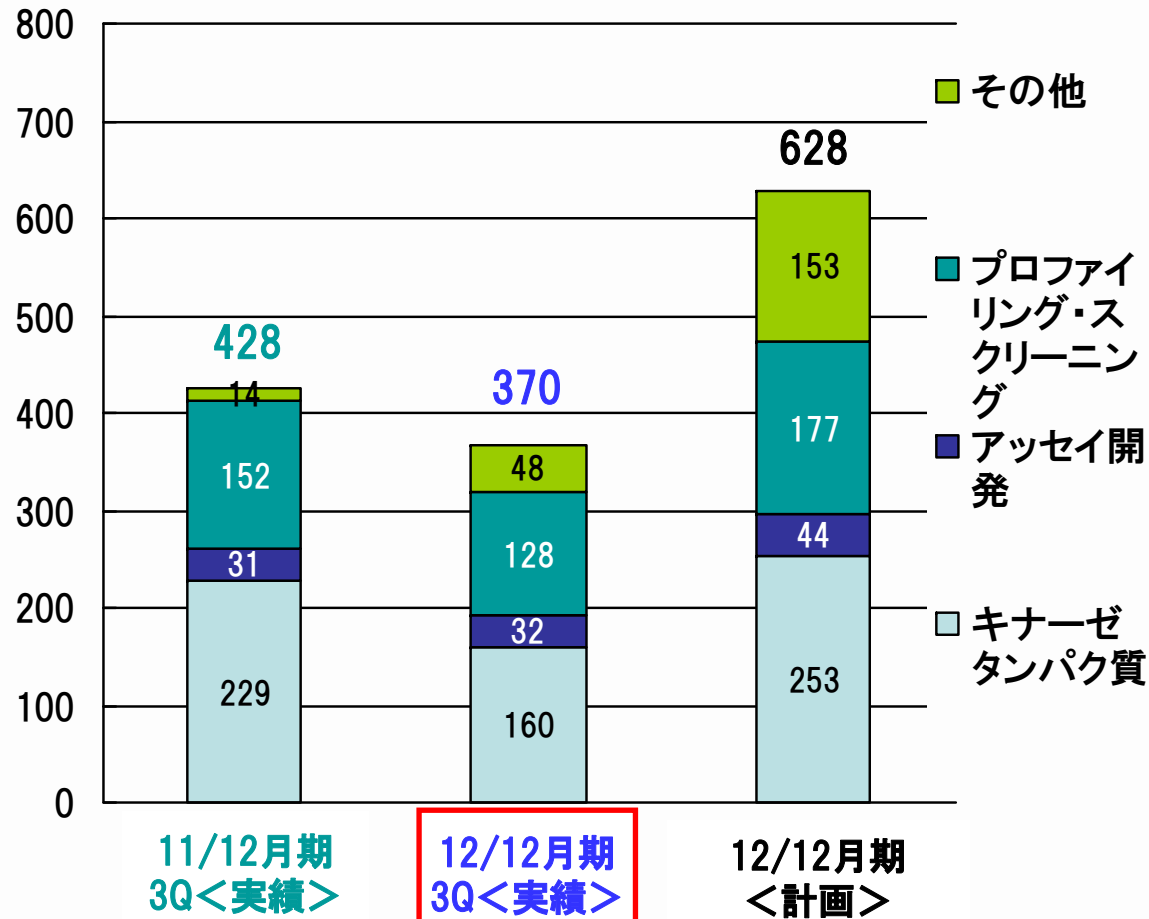
為替レート(US\$): 80.70円
海外売上比率: 49.0%

78.65円
38.6%

77.00円

製品別売上高(連結)

(百万円)



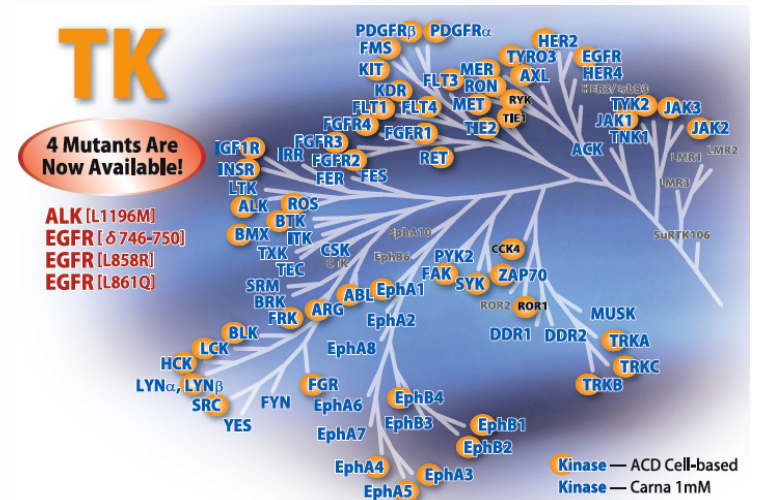
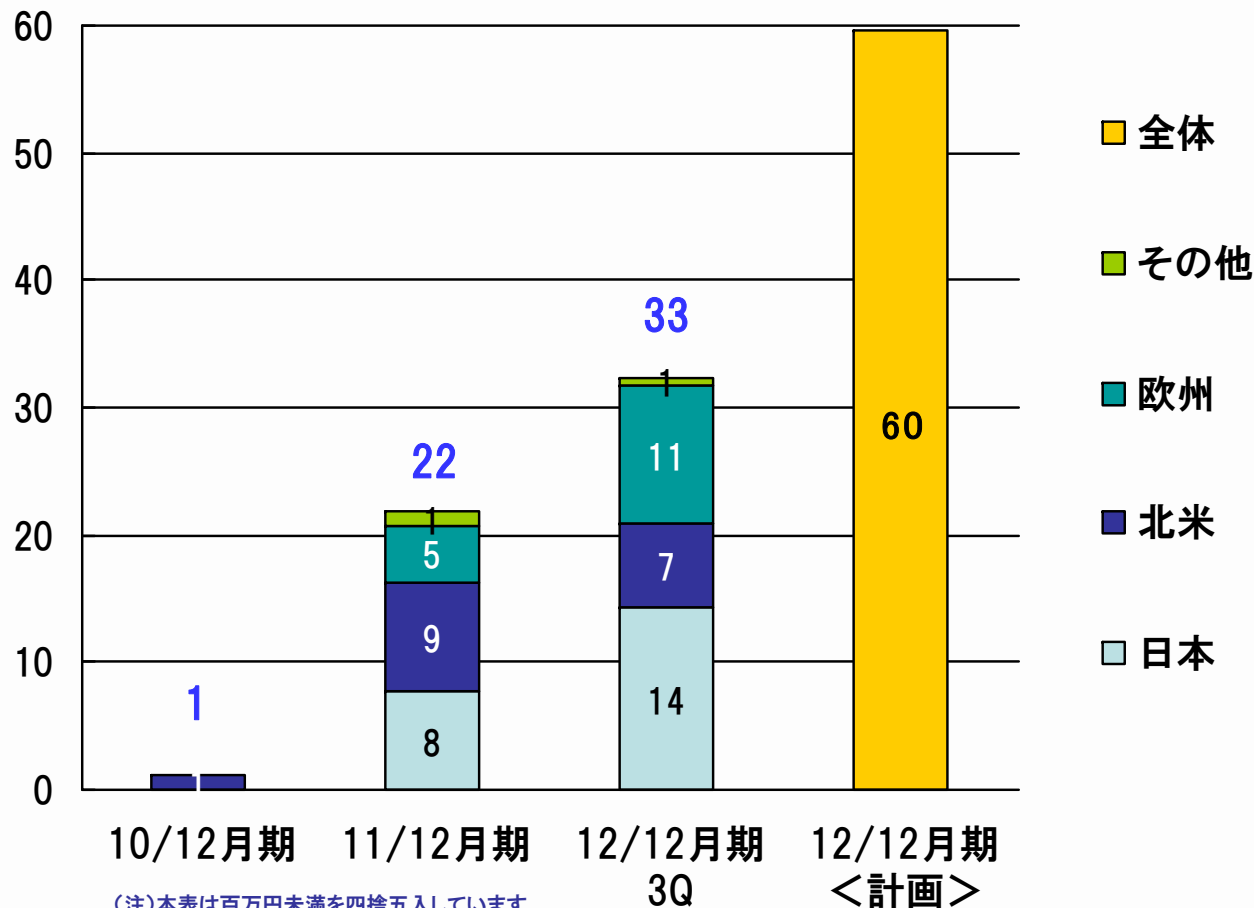
- ・タンパク質販売は前年同期比30.2%減
⇒国内は15.8%減
北米は27.4%減
欧州は17.0%減
その他地域でバルクタンパク質注文減
- ・プロファイリング・スクリーニングサービスは前年同期比15.7%減
⇒国内は12.7%減
北米は10.9%減
欧州は81.0%減
その他は46.5%減
- ・アッセイ開発は前年同期比4.0%増
- ・その他は前年同期比246.8%増
⇒国内は前年同期売上0から28百万円へ増
北米は17.2%減
欧州は274.4%増
その他は17%増
⇒独Crelux社のX線結晶解析サービスや米ACD社のセルベースアッセイサービス、セルラインの提供の売上増



セルベースアッセイの売上推移(創薬支援事業)

米国ACD社 チロシンキナーゼセルベースアッセイサービス 当社代理店売上高

(百万円)



61 Cell-Based Kinase Assays Ready for Profiling & Screening!

- ✓ 売上高及び売上原価の悪化により、売上総利益、営業損益が前年同期比マイナス
- ✓ 経常損益は営業損益のマイナスおよび営業外収益減(補助金収入)によりマイナス
- ✓ 四半期純利益は、経常損益の悪化及び特別損益の改善等により前年同期比104百万円のマイナス

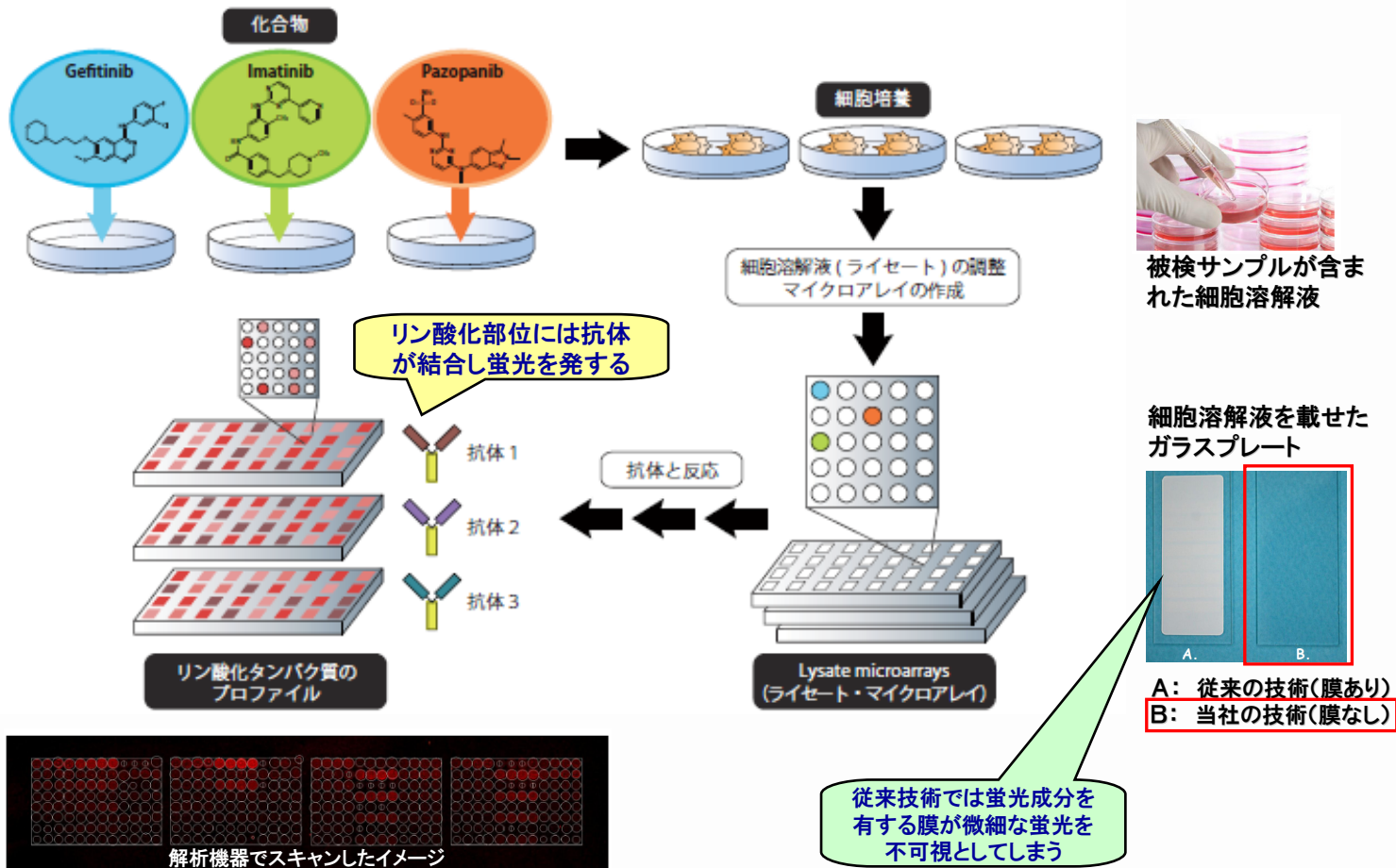
(百万円)		2012年12月期 3Q累計実績	2011年12月期 3Q累計実績	前年同期比 (増減額)	主な増減理由
売上	創薬支援事業	370	428	△57	北米、その他地域での売上の減少による
	創薬事業	—	19	△19	共同研究による分担金収入のマイナス(契約内容の見直しによる)
	合計	370	447	△76	
売上原価		158	144	14	外製品販売の増加に伴う
売上総利益		212	303	△91	売上減少+売上原価増
販管費	研究開発費	282	279	3	
	販管費 (研究開発費を除く)	293	311	△17	経費節減効果
	合計	576	590	△14	
営業損益		△364	△287	△77	
営業外損益		16	54	△41	補助金収入の減少
経常損益		△347	△232	△114	
特別損失		5	10	△5	前期の資産除去債務基準適用影響額が当期なしにより改善
四半期純損益		△354	△250	△104	経常損益の悪化+特別損失の改善

(百万円)

	2012年12月期 第3四半期末	2011年12月末	増減額	増減理由
流動資産	703	1,123	△420	
現金及び預金	482	701	△219	研究開発資金等
有価証券	—	200	△200	譲渡性預金の解約による
その他	220	221	△1	売掛金減少、棚卸資産増等
固定資産	200	194	5	
資産合計	903	1,317	△414	
負債合計	234	298	△63	長期借入金の返済による減少等
純資産合計	668	1,019	△350	
負債・純資産合計	903	1,317	△414	

独)国立がん研究センターから導入したRPPA技術に基づく リン酸化シグナルの網羅的解析サービスの提供開始

RPPA・・・Reverse Phase Protein Array:逆相タンパク質アレイ



【本技術の特長】
細胞溶解液をサンプルとして1枚のガラスプレートの上に多数スポットして、タンパク質のリン酸化状態を同時に多数解析することができます。これにより、高効率に網羅的に細胞内のリン酸化シグナルの状態を確認することができます。



**研究者向け
自社主催セミナー開催**
7月4日 東京品川
7月6日 神戸先端医療センター



注目される先端バイオテクノロジーネットワーク

世界のオンリーワンテクノロジーネットワーク



独立行政法人
国立がん研究センター

日本
RPPAリン酸化
シグナル解析



米CAI社 (平成24年7月2日発表)
セリン・スレオニンキナーゼ
セルベースアッセイ



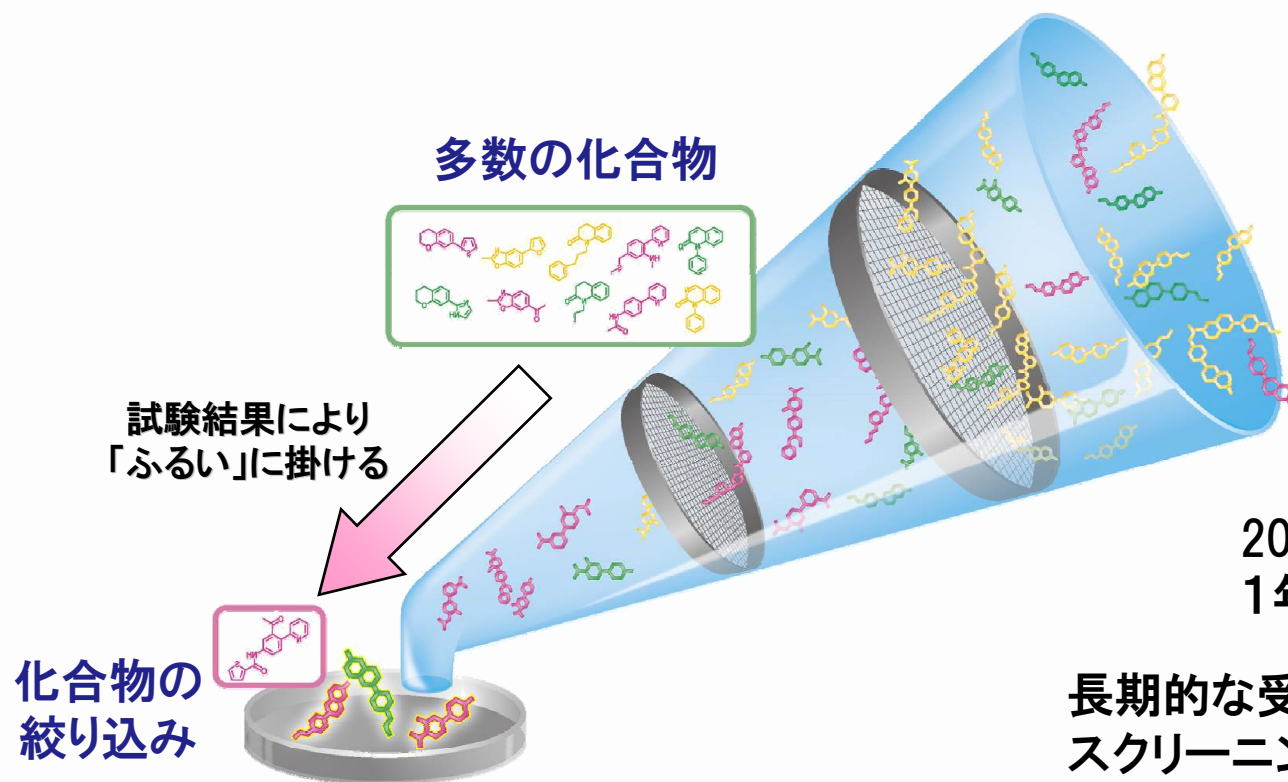
米ACD社
チロシンキナーゼセルベースアッセイ



独クレラックス社
共結晶サービス
結晶化グレードタンパク質

小野薬品工業株式会社からの 大規模キナーゼスクリーニングサービスの受託

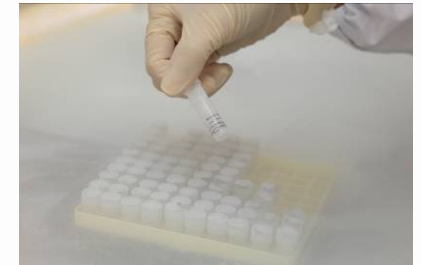
委託元から受け取った化合物について、当社の創薬基盤技術を用いて、特定のキナーゼについて薬効があるかどうかを確認し、医薬品として可能性がある化合物を選び出すことを「キナーゼスクリーニング」といいます。



2012年11月より2013年10月までの
1年間で実施。

長期的な受託試験計画を立案し、効率的にスクリーニングが実施可能なため、当該サービスの利益率向上に寄与する。

- **セルベースアッセイサービスのサービス強化**
RPPA、TK,S/Thキナーゼセルベースアッセイ
- **主力商品キナーゼタンパク質の供給体制強化**
台湾Abnova社へのOEM供給など
- **米国市場の販売体制強化**
販売ネットワークの再構築
- **年間契約の拡大**
プロファイリングサービス
スクリーニングサービス



神戸大学との新しい構造科学に基づく 先端的創薬技術の共同研究契約締結



KOBE
UNIVERSITY



CARNA BIOSCIENCES

デュアルキナーゼ阻害剤を新たなアプローチで設計し、画期的な新薬につなげる

大型放射光施設 SPring-8 の活用



(wikipediaより引用)

財団法人計算科学振興財団の
FOCUS(スーパーコンピュータ)の活用



地の利を活かして兵庫県に集積する最先端のデバイスを駆使できる
平成24年11月1日付 神戸新聞 朝刊1面に掲載



当社の創薬研究ネットワーク

TNIK及び新たな
キナーゼ阻害剤



DYRK1Aキナーゼ阻害剤



CDC7キナーゼ阻害剤



カルナバイオサイエンスを中心とした
創薬研究ネットワーク



創薬基盤技術



マラリアキナーゼ阻害剤



デュアルキナーゼ阻害剤



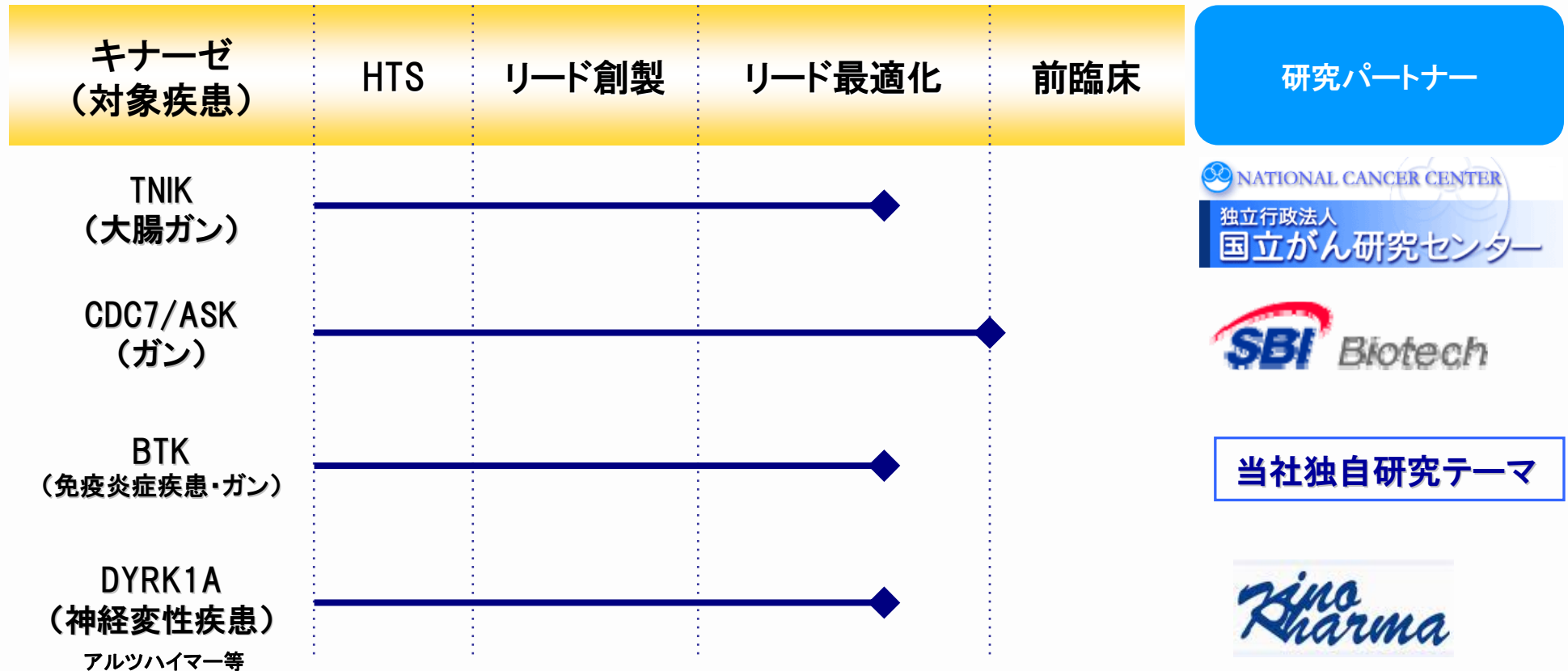
セリン・スレオニンキナーゼ
セルベースアッセイ系開発

※ 開示済みの製薬企業、バイオベンチャー、研究機関のみ表示しています

2012年9月現在

当社が公表している研究パイプラインの進捗状況

2012年9月末現在

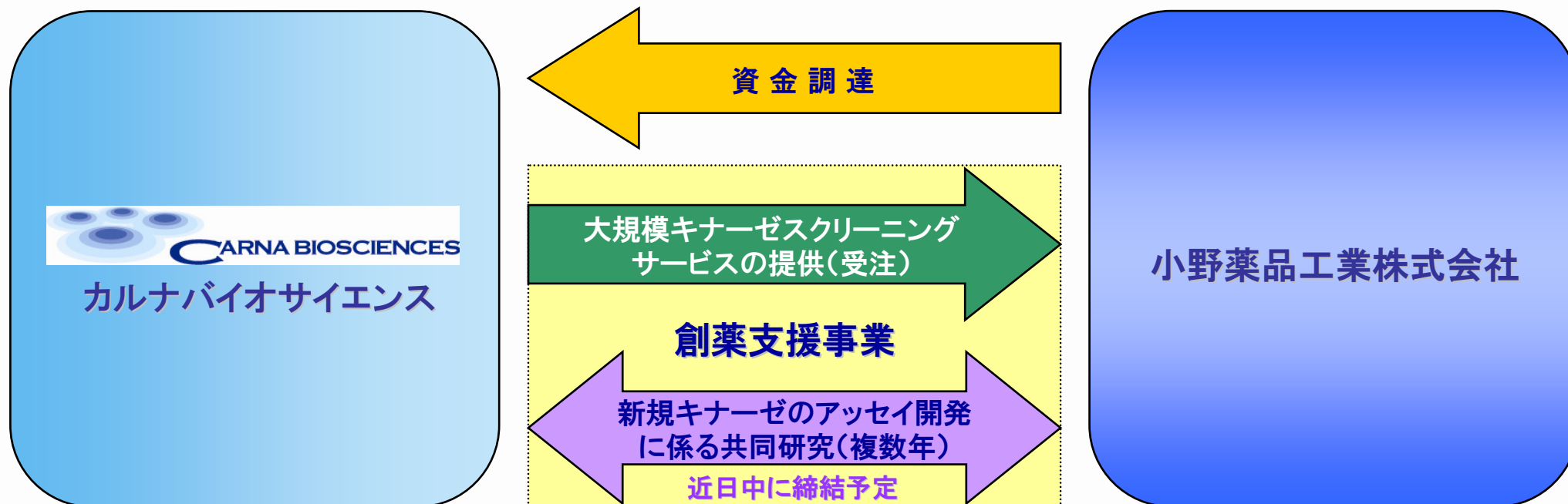


- ✓ CDC7の前臨床段階へのステージアップを決定。
- ✓ その他研究テーマもステージアップに向けて研究開発中

- ガンを継続的に重点領域とする
- 前臨床研究段階にステージアップしたCDC7の前臨床研究早期開始
- さらにもう1件のステージアップの達成
- 導出活動を継続的に実施
- アカデミアを含めた研究パートナーとのアライアンスの活用
(国立がん研究センター、北里研究所、神戸大学等)

ステージアップ数	前臨床⇒臨床 (又は導出)			1	1
	探索⇒前臨床 (又は導出)	1	2	1	1
研究テーマ数		4	5	5	5
		2012年 第3四半期	2012年 12月期計画	2013年 12月期計画	2014年 12月期計画

2012年10月23日の小野薬品工業株式会社に対する第三者割当による新株式の発行により、290百万円の資金調達を実行



今回調達した資金により、当社の創薬研究のスピードを加速し、前臨床研究及び新規研究テーマならびに既存テーマの化合物最適化に注力。

今後とも一層のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



カルナ《CARNA》は、ローマ神話に登場する人間の健康を守る女神で、cardiac(心臓)の語源とも言われています。バイオサイエンス《BIOSCIENCES》は、生物学と言われ、生物学(Biology)と生命科学(Life Science)から、つくられた言葉です。「生命科学の世紀」とも言われる21世紀に向けて、カルナバイオサイエンス社とともに新しい女神“カルナ”が誕生しました

カルナバイオサイエンス株式会社
経営管理本部 経営企画部
〒650-0047
兵庫県神戸市中央区港島南町1-5-5 BMA3F
Tel (078)302-7075 Fax (078)302-6665
<http://www.carnabio.com/>
ir-team@carnabio.com

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用下さい。また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆様がいかなる目的に利用される場合においても、ご自身の判断と責任において利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。